

---

◎町長行政報告

○議長（稲葉昭宏君） 日程第4、町長の行政報告を行います。

町長から報告の申し出がありますので、これを許します。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 平成28年松崎町議会第2回定例会の開会にあたり謹んで行政報告を申し上げます。

平成28年度も、早や2か月を経過いたしました。その間には4月14日に発生したマグニチュード7.4の地震を皮切りに、長期間にわたり頻発して大きな被害をもたらした熊本地震が発生しました。被災した方々に改めてお見舞いを申し上げます。熊本地震に対しましては、県の災害復旧支援隊として町からも職員1名を派遣しましたが、その活動報告を聞く中で日頃の備えの大切さを改めて痛感いたしました。町の防災力向上に今まで以上に取り組むとともに、住民の皆様の意識が高揚するよう努めていきたいと思っております。

平成28年度は、施政方針でお示した通り第5次総合計画の着実な実行と、総合戦略に基づく地方創生事業の推進を図ることで、自立に向けた魅力ある町づくりを展開し、産業振興や人口減少対策を実りあるものとする元年となります。そのため、重点施策として日本で最も美しい村連合の登録資源（なまこ壁、棚田、桜葉）の持続性確保。ICT（情報通信技術）の利活用と地域産業の再生や起業支援。官民協働の防災まちづくりの推進。子育て支援と健康長寿対策の充実を「松崎版4本の柱」として積極的に取り組んでいます。

町に賑わいを取り戻すことは一朝にして出来るものではありませんが、こうしたときこそ官民一体となり、知恵を出し、汗をかきながら難局を乗り越えていくことが必要であると感じているところでございます。

今後とも行政諸般につきまして議員各位のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、4月以降の町政の動向について概要を2点ほど報告いたします。

1つ目は、津波対策検討会についてであります。津波対策（ハード対策）につきましては、町内の4海岸ごとに地区協議会を設け、住民の皆様の声を聞きながら方針を定めていく静岡方式により、土木事務所と共に協議を続けてまいりました。当初は27年度末を目途に方向性を取りまとめる予定でしたが、協議会参加者だけでなく広く意見を求めることが必要となり、説明会などを増やした関係から本年度も引き続き協議会を継続することとなりました。地域の皆さ

んの意見を参考に、土木事務所とも協議しながら対策案をまとめていきたいと考えています。

2つ目は、旧小学校などの遊休施設の利用についてであります。遊休施設につきましては、長らく跡地利用が定まらない状況が続いていましたが、下田警察署松崎分庁舎の移転や、地方創生事業の検討の中でいくつかの案が出てきたことから、町有施設配置検討委員会を組織し、各施設の有効利用が図られるよう検討を始めました。各事業がより効果を発揮できるような施設利用を実現していきたいと考えています。

本日は、町営観光施設の入館状況について他3件についてご報告いたします。詳細は担当課長より申し上げます。

○企画観光課長（山本 公君） それでは、企画観光課から3件の行政報告をさせていただきたいと思います。

はじめに町営観光施設の入館状況につきまして、資料ナンバー1をお願いしたいと思います。はじめに1ページをお願いいたします。1ページ目に伊豆まつぎ荘の状況が記載してございます。左側に27年度、26年度の比較、右側に本年度、前年度の月間の比較ということで記載されております。いずれも本表につきましては税込の表示ということでお願いしたいと思います。

27年度につきましては、最下段に按分利益ということでございますが、マイナスの749万4000円でございます。昨年度がマイナスの2009万1000円でございます。1259万7000円の改善となっております。27年度の詳細につきましては、本議会におきまして決算の審議をお願いいたしますので、詳細につきましては省略をさせていただきたいと思います。

右側に4月の実績がございます。宿泊利用人員につきましては1718人ということで、前年に比べまして214人の増でございます。

入浴・休憩を加えました人数につきましても、291人増の2664人となっております。収益につきましては、中ほどにございますが、昨年より207万5000円増加いたしまして、2253万7000円となっております。

公債費・減価償却費を按分して加えた費用は前年度より7万1000円増加いたしまして、2355万5000円でございます。利益につきましては、マイナスの101万8000円となりましたが、前年度に比べまして200万4000円改善ということになっております。

続きまして、2ページをお願いいたします。2ページ目に町営の入館施設の状況が記載してございます。人員並びに収支差額につきましてご説明をさせていただきたいと思います。伊豆の長八美術館につきましては、184名の減でございます。2367人でございます。収支差額につ

きましては、マイナスの39万1000円でございますが、前年に比べまして42万7000円改善いたしております。

重要文化財岩科学校でございますが、193人増加いたしまして1700人でございます。収支差額につきましては、マイナスの21万円ということで前年と同額でございます。

3ページをお願いしたいと思います。3ページにつきましては、明治商家中瀬邸・民芸館の記載がございます。明治商家中瀬邸につきましては、79人増の1215人でございます。収支差額でマイナスの27万9000円という形ですが、5万8000円改善をしています。

民芸館でございます。マイナスの231人ということで、653人ということになりました。収支差額につきましては、マイナスの59万2000円で前年度に比べて1万5000円の悪化となっております。

最後に4ページをお願いいたします。道の駅花の三聖苑につきましては1834人増、4453人、収支差額でマイナスの31万6000円でございますが、前年度より67万5000円の改善ということになっております。。

伊豆まつぎき荘につきましては、桜や花畑の開花状況が良かったこと、あるいは自社サイト「ゆこゆこ」の利用が順調に推移したことから宿泊者の増に繋がっており、今後も積極的な企画、誘客活動に努めてまいりたいと考えております。

なお、その他入館、入浴施設につきましても、長八美術館・民芸館で利用人員が減になっているものの、前年に比べまして収支が改善するスタートとなっております、今後も営業活動を行い、誘客に向けた取り組みを図るとともに、関係市町あるいは美しい伊豆創造センター等とも連携をしながら誘客を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

次に、資料ナンバー2をお願いしたいと思います。資料ナンバー2、花の咲くまち推進事業の実績ということでございます。本事業につきましては、平成12年度より農閑期の田んぼを利用いたしまして大規模な花畑を造成いたしまして、花いっぱい運動の目玉ということで実施をしているものでございます。規模がでございますが、昨年度より3番目に規模がでございますけれども、前年より3568平方メートル増えまして約5万8557平方メートルでございます。昨年同様6種類の種をまきまして、2月の下旬から5月の下旬まで順次開花をみているところでございます。

作業工程につきましては、これまで稲刈りですとか脱穀ですとかの終了を待って耕耘を行い、種まきをしていたわけでございますが、脱穀が終了した田んぼから順次種をまくこととい

たしまして、10月25日に種まきを行っております。

最初に咲くアフリカキンセンカでございますが、昨年より25日早く2月2日に開花を確認いたしております。開花の状況につきましてはホームページ等で掲載をさせていただいてご案内をしたところでございます。

2ページをお願いいたしたいと思っております。2ページに事業費がございます。上の段が種をまいたり耕耘をしたりというような関係の費用、下は交通整理ですとか、あるいはトイレのリースの関係の費用でございます。上の段の花畑の造成の関係の事業費でございますが、合計で542万2131円でございます。その他経費が156万4768円ということでございまして、計698万6899円、約700万円でございます。前年度に比べまして、82万円ほどの増となっております。

一番下段に来場者数の数が記載してございます。平成28年におきましてはカウント日数49日で5万9684人、カウントした日数は42日ということでございまして、1日あたりの来場者は1421人ということになっております。前年が1205人ということでありましたので、216名の増ということになっております。

またこの田んぼを使いまして観光協会の方で売店を設置したり、ガラポン等のイベントを実施したりしております。また松崎町まちづくりやろうじゃ協議会におきましては、リアルかかし、2年目の設置になりますが、そちらを設置いたしまして、新聞等にも大きく取り上げられ、また観光客の皆さんが多く来場していただいたところでございます。

続きまして、資料ナンバー3、ふるさと納税の寄附状況につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。

ふるさと納税につきましては、平成27年度から寄附金額に応じまして返礼品をご用意させていただいているわけでございます。現在28業者で90品目の品を揃えているわけでございますが、ウェブサイトですとか、あるいはクレジット決済のシステムを取り入れてスタートさせていただいたところでございます。

左側の上段に27年度の状況がございまして、寄附件数で1637件、2322万4953円ということになりました。内訳が下段に書いてございまして、5000円から1万円で約82パーセントを占めているところでございます。

なお、平成26年度につきましては、23件、614万8000円でございます。1707万6953円の増となっております。納付方法別ランキングあるいは寄附自治体別ランキングにつきましては、右に記載のとおり、クレジットによるものが82パーセント、自治体のランキングは東京都、神奈川県、静岡県の順となっております。使途別ランキングにつきましては中ほどに記載された

とおりでございます。

なお、最下段に返礼品のランキング等も記載しておりますので、またご覧いただきたいと思っております。なお、平成27年度ご寄附をいただきました2322万4953円から賃金あるいはふるさと納税の特典品あるいはふるさと納税システムの手数料にかかる支出を差し引きました1500万円余りをふるさと応援基金として積み立てをさせていただいたところでございます。

以上、企画観光課からの行政報告をさせていただきました。

○生活環境課長（高橋良延君） それでは生活環境課から行政報告の4番目、公営企業会計平成28年4月末経営状況について報告させていただきます。

資料ナンバー4番をお願いいたします。

はじめに、水道事業会計の方でございます。本年度4月末収益は、営業収益・営業外収益を合せて1176万7000円、前年対比42万2000円、3.5パーセントの減となっているところであります。理由といたしましては、4月末現在の有収水量につきましては7万8242立方メートル、前年対比2190立方メートルの減となり、一般用と営業用ともに減少によりまして、収益減となっているところであります。

また、予定収益を入れた事業収益の合計は1278万4000円、前年対比42万2000円、3.2パーセントの減となっております。

一方、費用の方でございます。営業費用・営業外費用に予定費用を加えました合計は、881万9000円、前年対比26万3000円、2.9パーセントの減となっております。

その結果、差引純利益につきましては、396万5000円、前年対比15万9000円、3.9パーセントの減となりました。

続きまして、温泉事業会計でございます。

はじめに、収益の方ですが、営業・営業外収益を合せて505万2000円、前年対比3万3000円の減、0.6パーセントの減となっております。

自家用の開栓が4件増加し、休止が1件減りましたが、トータルで若干の減となっているところでございます。

一方、費用の方でございます。営業費用・営業外費用に予定費用を加えました合計は、321万3000円、前年対比2万4000円、0.7パーセントの減となっております。

また、水道事業会計同様、本年度は特別損失の計上はありませんので、その結果、差引純利益につきましては、203万2000円、前年対比9000円、0.4パーセントの減となりました。

両会計ともほぼ前年並みの利益を確保しておりますが、水道事業においては、営業用の使用

水量の減少は続いているところでございます。

また、温泉事業については、引き続き新規加入の促進を図っていきたいと思っております。

以上、4月末公営企業会計の状況についてのご報告といたします。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で町長の行政報告を終わります。

暫時休憩します。

（午前 9時20分）

---